

# ぐんぐん伸びる子は何が違うのか？

2018年10月12日  
一般社団法人 教育デザインラボ 代表理事  
石田 洋

## 【プロフィール】

- ▶ 学習塾経営 20歳で起業し、会社を設立。学習塾を創業
- ▶ 学校経営 34歳で東京の中高一貫校1600人の学校を常務理事として大改革
- ▶ 研究活動 東京大学大学院教育学研究科博士課程  
公立大学法人 都留文科大学 特任教授 (2018/4~)
- ▶ ライター  
東洋経済オンライン「ぐんぐん伸びる子は何が違うのか？」を連載  
累計5700万アクセス (2018/6 段階) を超える
- ▶ 普及活動 (一社) 教育デザインラボ 代表理事  
「日本から勉強嫌いな子を一人残らず無くしたい」を実現のため  
→ ママカフェの展開、親の学び場づくり、企業内ママカフェ

## 学びの法則

3500人の子どもたちを指導してきて  
わかった、出来ない子に共通する癖

1. 学力が低い生徒に共通する「生活習慣」

- ① 挨拶をしないか、いい加減な挨拶
- ② 時間を守らない
- ③ 整えるという言葉を知らない。つまり汚い

3. 学力が伸びない生徒に共通する  
「心の使い方」

- ① 自分をバカだと思っている。  
つまりイメージ力を悪い方向で使う
- ② 失敗を恐れている。そのためいつも失敗する
- ③ マイナス言葉が非常に多い

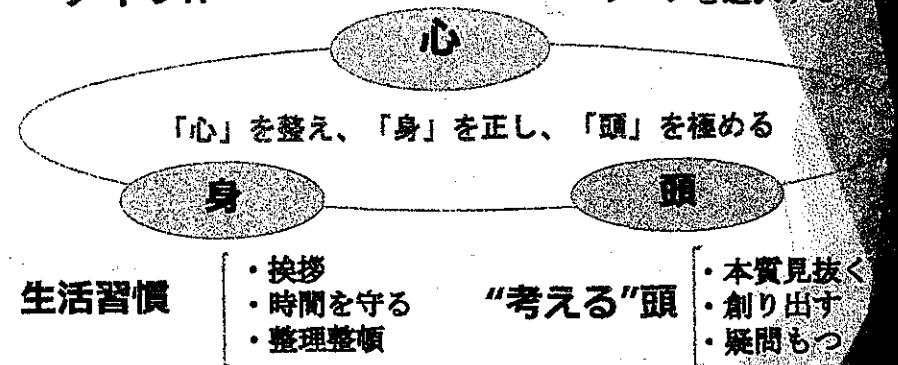
2. 学力が伸びない生徒に共通する  
無駄な「勉強法」

- ① 詰め込み暗記型をやろうとする
- ② 勉強という作業に無駄が多い。つまりやり方が間違っている
- ③ 勉強は量より質だということに気づいていない

【マルチタスク型】  
タイプA

絶対積極

- ・失敗を量産する
- ・マイナス言葉禁止
- ・ゾーンを選択する



【シングルタスク型】  
タイプB 絶対積極

- ・失敗を量産する
- ・マイナス言葉禁止
- ・ゾーンを選択する

心

良いところ、好きな部分を徹底的に伸ばし、短所や嫌いなことは一切しない

1点集中

生活習慣

だらしなくても気にしない  
（「ちゃんとしなさい」は禁句）

好きなことについて  
“考える”頭を作る

ある心理的状态の違いにある

学びを「快」と感じるか、「不快」と感じるか

ぐんぐん伸びる子とそうでない子の  
決定的違いは何か？

一般に、（人間性も学力も）成長させる  
ためには

次の2つのアプローチが必要

1) モティベーション（動機）

2) 仕組み

## ◆モチベーションには2種類ある

- 1) 建設的動機付け → 「～したい (want to)」
- 2) 強制的動機付け → 「～しなければならない (have to)」  
「仕方ない」  
→無意識では「やりたくない」がある

例えば勉強では、通常「やる気」を引き出すために、次のようなモチベーションが使われる

「頑張れ！」  
「今やっておけば後で楽だから」  
「勉強は大切だ！」  
「勉強やりなさい！」  
「なんだこの点数は！  
もっと気合い入れてやれ！」

しかし、これら精神論の話は、一般的に

“嫌々やるか” “やらないか”

のいずれかにしかならない場合が多い。

つまり「不快」を呼び起こしかねない

## ◆代表的な2つの仕組み

- ①自分が成長していると感じる「見える化」を作る  
→「子ども手帳」
- ②日常で使用する言語を変える  
→「マジックワード」

|       | 月   | 火                      | 水                      | 木                                  | 金                      | 土                      | 日                      |
|-------|---|------------------------|------------------------|------------------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 7:00  | <del>おきる</del><br>スリット                                  | <del>おきる</del><br>スリット | <del>おきる</del><br>スリット | <del>おきる</del><br>スリット             | <del>おきる</del><br>スリット | <del>おきる</del><br>スリット | <del>おきる</del><br>スリット |
| 8:00  |   |                        |                        |                                    |                        |                        |                        |
| 9:00  |   |                        |                        |                                    |                        |                        |                        |
| ...   |   |                        |                        |                                    |                        |                        |                        |
| 15:00 | しゃんぱい   | しゃんぱい                  | しゃんぱい                  | しゃんぱい                              | しゃんぱい                  | しゃんぱい                  | しゃんぱい                  |
|       |   |                        |                        |                                    |                        | ボーナス 5P<br>ぜんがで29P     |                        |
| 21:00 | <del>おきる</del>  | <del>おきる</del>         | <del>おきる</del>         | <del>おきる</del>                     | <del>おきる</del>         | <del>おきる</del>         | <del>おきる</del>         |
|       | 《やくそくごと》<br>1. 約束守る、うそつかない<br>2. くつをそろえる<br>3. げんきにあいさつ |                        |                        | 《ママからのメッセージ》<br>よくがんばりました！いいちようしだね |                        |                        |                        |

## 1) ロジカル・ワード

- 「要するにどうということ？ (In a word?)」  
→ 抽象化させる
- 「例えばどうということ？ (For example?)」  
→ 具体化させる

## ◆マジックワード

4つのマジックワードを使って自然と、日常会話の中で、考える頭を作ってしまう

→ 知的好奇心を自然と引き出すワード

## ◆クリエイティブ・ワード

- 「なぜ？ (Why?)」  
→ 原因分析
- 「どうすればいい？ (How?)」  
→ 新しいことを創り出す

## 【子どもの好奇心を引き出し「賢い頭脳」を作る10のマジックワード③】

- 要するに？
- 例えば？
  
- なぜ？
- どう思う？
- どうしたらいい？
  
- 楽しむには？
- 何のため？
- そもそも？
- もし〜どうなる？
- 本当か？

## 【感心のマジックワード】

①なるほど

## 【安心のマジックワード】

②知らなかった

①だいじょうぶ

## 【指摘するマジックワード】

①らしくないね（「～らしいね」はセルフイメージを引き上げる言葉でもある）

## 自己肯定感を引き上げる10のマジックワード④

### 【承認のマジックワード】

①すごいね

②さすがだね

③いいね

### 【感謝のマジックワード】

①ありがとう

②うれしい

③助かった

## マジックワード使用上の3つの注意点

- 1) マジックワードは「軽く、明るく、さりげなく」使う
- 2) 短いことが重要→その後に、だらだらと話して長いとマジックワードの効果を失う
- 3) これらの言葉は親（指導者の立場）の「プラスの感情表現」であるため、素直に感じたことを言語化する